

東陽病院 鈴木健士 医師

# 健康へのメッセージ

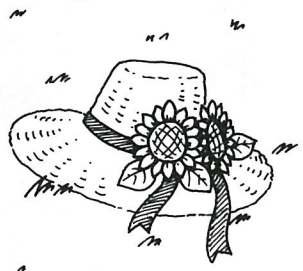
シリーズ ②

## 薬害について

## 薬をのむ害のまない害

光町のみなさんこんにちは。今回は薬の害(副作用)についてお話ししたいと思います。

外来診療の際に、患者さんとお話ししていますとよく「副作用のないお薬をください」と言われます。そういう時に私は決まって「副作用のない薬はありません」とお答えします。いつもみなさんを不安がらせてしまつて大変申し訳ないのですがこれは本当のことです。なかには漢方薬なら副作用とは無縁だとおっしゃる方もおられるかと思いますが、私はやはり副作用の可能性はあると思います。生薬といえどもその中には西洋医学で薬として使われている物質が実際に含まれていることはすでに証明されているのでその物質の副作用が全くないなどは考えられないと思うのです。こんなことを書くのが怖くなつてしまふ人がいるかも知れませんが、高血圧の患者さんによくお出しする薬には劇薬といわれるものもあ



りますし、多くの薬の取扱説明書には、「ときにショックの起きることがある」と書いてあります。そんな危険なことが書いてある薬をのんでも大丈夫なのかと思われりましょう。しかしこれは(自己

が)ある意味仕方ないことでもあるのです。薬に対するアレルギー反応というのは事前にはわかりませんがどうかはわからない部分もあるのです。(しかし喘息の人には出してはいけない薬を出したりするのは論外ですが) そんな薬ならもうのみませんという人もいるかも知れませんが、ここで少し考えてみてください。それは薬をのむことによる危険もありますが、薬をのまないことによる危険もあるのです。例えば高血圧で薬をもらったがのんだら顔がほつて頭がポツとしたので怖くなつてのむのを止めてしまったということがありました。副作用が出たのですから薬を止めるのは賢明だと思います。しかしそのまま止めたままにするのはどうでしょうか、血圧が高いまま薬をのまないでいたら高血圧による弊害が起きるかも知れません。薬は当然必要だからのむのであつて止めてしまつては治療効果はないことになってしまいます。風邪薬などでしたらまなくてもたいしては問題ありませんが、止めてしまつては困る薬も多いのです。

薬の副作用はなるべくなくなるよう常に努力すべきですが、それを怖れるあまり医療の恩恵が受けられないのも問題です。服用を止めたままにしないで是非すぐにその薬を出した医師に相談し、よりよい医療を受けていただくと思います。

### 《夏休み特別企画》

図書館にある数多くの戦争に関する資料のほか、写真パネルや敗戦直後の世相を示すポスター等、貴重な実物資料の展示と、映画の上映を行います。  
戦後50年を迎えて、今、改めて戦争とは何かを親子で話し合つてみてはいかがでしょうか。



こんな時代もあった「50年前の日本」

### 【資料で見る戦後50年】

場所 1階ロビー  
期間 8月20日(日)まで  
【終戦企画映画会】  
場所 ハイビジョンホール  
期間 8月8日(火)~12日(土) 8月15日(火)

上映映画と時間  
【うしろの正面だあれ】 10時  
【遠すぎた橋】 午後1時30分  
(期間中、毎日上映)

### お知らせ

8月31日(木)の館内整理(休館日)は、9月5日(火)に変更します。

ほんの **森**  
= 町立図書館 =  
☎043311

### 8月 ハイビジョンシアターのご案内

- 6日(日) アニメ映画「少年アシベ①」 10:30・13:30・15:30上映
- 13日(日) アニメ映画「少年アシベ②」 10:30・13:30・15:30上映
- 20日(日) アニメ映画「少年アシベ③」 10:30・13:30・15:30上映
- 27日(日) ハイビジョン特報「阪神大震災」 10:30・14:00上映



6月

開館日数 25日 来館者数 16,599人 図書貸出冊数 26,074冊